

月刊島民

中之島

Vol.106 2017 5/1

●iPadサイズ(と、ほぼ同じ)

橋を渡る人の「街事情」マガジン



ナカノシマ大学

「アクアライナー
船内探検ツアー」

岸田俊徳

申し込み受付中!

ステレオタイプをぶっ飛ばせ!

どんな街にも必ずあるステレオタイプ。イメージを広く行き渡らせやすい反面、「知ってるつもり」になりがちな弱点も。特に昔からなんとなく使われてきたフレーズは、用法用量を守って正しく使わなければ、格好悪いぞ。

取材・文／江口由夏(本誌)

アウト? セーフ? 行ったことあんのか 誰が呼んだか「東洋の〇〇」。

●歴史的考察

① 駐日総領事の手記

さて、中之島がシテ島に例えられたゆえんは何か。



Stereotype No.1

東洋のシテ島

〈使用例〉

中之島はパリのシテ島を思わせるような景観で、大阪における文化・芸術の発信拠点になっています。

〈ポイント〉

花の都(←これもステレオタイプ)と呼ばれ、世界の誰もが知るパリへの憧れが見え隠れ。パリが芸術の都とされるのにも重ねて、文化や芸術をセットでアピールするのもお約束。

●シテ島とは?

フランスの首都パリの中心を流れるセーヌ川の中洲。地図で見ると、形は確かに中之島に似ている。サン・ルイ

実は、いつから中之島が「東洋のシテ島」と言われ始めたのかは定かではない。しかし、幕末の中之島を見て、そのように描写した外国人がいた。初代駐日総領事を務めたイギリスのR・

島とは1本の橋でつながっているのだが、まるで中之島公園のぼらぞの橋あたりを彷彿? ならばサン・ルイ島は剣先公園といったところか。とはいえず、中之島の約72 haという広さに対し、シテ島は約22・5 ha。大きさはかなり違う。しかし、島の面積に対してその歴史は膨大。隣に続くサン・ルイ島を含め、フランスで最も長い歴史を誇り、「パリ発祥の地」とも呼ばれる。9世紀頃にはすでに建造物があり、12世紀にはノートルダム寺院の建築が行われ始めた。世界遺産であるノートルダム大聖堂や、ステンドグラスで有名なゴシック建築のサント・シャペルをはじめ、島内の建物は17〜18世紀のパリ地区の典型的な古い家やホテルなど歴史的な景観が保たれている。

また、対岸にはルーブル美術館にオルセー美術館があり、パリの中心地として「芸術の都」という異名を正しく表している。

オールコックは、幕末に来日し、日本滞在記『大君の都』をロンドンで出版した。彼は文久元年(1861)に長崎から江戸に向かう道中で大坂に立ち寄っており、その際の描写がこうだ。



月刊島民のありがち



「シマ」
創刊当初に頻出。中之島を島だとアピールしたために、カタカナにしているのがわざとらしい。最近では使いすぎないよう目重している。

パリと大阪の守口市でIT関連企業を経営しています

2013年に大阪で「Khepris Japan」を設立し、それ以来ずっと天満橋に住んでいます。仕事の関係で年に数回はパリに戻りますが、ほとんどの時間を日本で過ごしています。

中之島とシテ島？ 比べたこともないんですが、似ていないと思います。シテ島に住む人は、歴史を守ってゆく意志があり、古い建物と共に呼吸をしています。メインストリートには、有名な「ベルティヨン」本店があり、そのアイスクリームを売るショップやカフェ、レストランやショップなどが軒を連ねていて、夜遅くまでにぎわっています。

それに比べると、中之島はコンクリートの高層ビルでとても整理されていて近代的。便利さを求める感覚が強いような。日常の人々の暮らしがあるようなあたたかい雰囲気よりも、クールな感じがします。ビジネス街なので、夜は特に暗く静か。キタやミナミに比べると、どちらかというと寂しい印象を受けますね…。

フランス人に聞いてみた!

ジャック・ルシエルさん



「島（中之島）があつて、家がたくさん立っており、セーヌ川のサン・ルイ島のような感じだった」

著書そのものは決して日本人に好意的ではないが、この記述は褒め言葉と受け取ってもいいだろう。

生粋のパリジャンには辛口コメントをもらってしまったので、中之島にある近代建築群がいくらか魅力的でも、シテ島にある数世紀前の建築群と同じ土俵で比べてはいけない。当然パリを「欧州の中之島」などと言ってはいけない。

② 近代美術

日本の近代を代表する洋画家たちの作品からは、大正昭和初期にかけての中之島に異国情緒を見出した跡が残っている。生涯の大部分をパリで過ごした佐伯祐三の「肥後橋風景」、フラ



佐伯祐三「肥後橋風景」(1926年／朝日新聞社蔵) 安治川口を描いた「汽船」など、水辺がパリを想起させるのだろうか。



右／1900年に出来たアレクサンドル3世橋は、凝った装飾で有名。
上／2009年の再オープン以前の中之島バラ園。



ンスに留学した小出楢重「街景」など。私たちがレトロに感じる景色は、たとえば小出が「大阪の近代的な都市風景」と表現したように当時は時代の最先端だったわけで、それが芸術家たちの理想だったパリの街と重ね合わされたとしても不思議はない。

特に、称賛されていたのは中之島公園の一角。そういえば、大正4年（1915）に景観に配慮して架け替えられた難波橋には、セーヌ川に架かるアレクサンドル3世橋と同じくライオン像がいる。

また、中之島公園にあるバラ園の大改修を手がけた京阪園芸によれば、かつてはヴェルサイユ宮殿の庭園がモデルになっていたそう。昭和年間にはその線対称のレイアウトが日本全国へ広まっていくが、バラフランスという図式で、「東洋のシテ島」説は補強されたのかもしれない。

③ 通天閣もパリがお手本

大阪とパリのつながりといえば、明治45年（1912）に開業した新世界上に触れないわけにはいかない。明治36年（1903）の第5回内国勸業博覧会跡地にオープンした一大歓楽地は、パリの放射状街路とニューヨークの海浜リゾートと遊園地をお手本につくられた。また、初代の通天閣は、もともと凱旋門とエッフェル塔を重ね合わせてきたデザインだ。



当時は通天閣の足元に遊園地「ルナパーク」が広がっていた。大阪市立中央図書館蔵

● まとめ

中洲であること、大阪でも歴史が深いエリアであること、文化・芸術施設が多く集まっていることが、中之島がシテ島に例えられる要因に違いない。シテ島には警視庁や病院もあり、そのあたりも近いかもしれない。

思わずパリに親近感が沸いてしまうが、決定的に違うのは、シテ島は歴史的景観が全面的に守られているが、中之島は時代ごとにどんどん更新されているという点。使う時は、これを踏まえておきたい。もちろん、古くからエライといった単純な話ではない。

●ベニスとは？

英語で「ヴェニス」、イタリア語では「ヴェネツィア」。有名すぎる異名が「水の都」で、まさしく水上にある人工都市。イタリア北東部にあたり、地中海の一つであるアドリア海最深部に位置する。その起源は5世紀、ゲルマン人の侵入から避難した北イタリアの住民が、干潟（ラグーナ）に定住したことにさかのぼる。湿地帯特有の軟弱な地盤、水上交通の未発達が、かえって外敵の侵略を退けていたわけだ。



現在、街なかの交通手段は運河と路地を進める船か徒歩のみ。自転車やクルマは入口にある広場までしか入れない。運航されているのはヴァポレットと呼ばれる水上バス、モトスカーフと呼ばれる水上タクシーなど。日本人にもよく知られているゴンドラ（これもステレオタイプか）は、実は観光用がほとんど。

●歴史的考察

①宣教師が見た堺

「東洋のベニス」という言葉は、もともと弘治2年（1556）に来日したポルトガル人宣教師のガスバル・ヴ



Stereotype No.2

東洋のベニス



＜使用例＞

古くから水上交通が発達していた中之島は「東洋のベニス」と呼ばれ、水辺のにぎわいも大阪の名物の一つです。

＜ポイント＞

シテ島と同じく世界的に有名な水辺の都市だが、景観よりも、行き交う船などの水上交通や水辺のにぎわいを強調。シェイクスピアの戯曲「ベニスの商人」の存在もあり、格調高いイメージ？

イレラが、布教活動を行っていた当時の堺を指して使った。「堺の町は甚だ広大にして大なる商

人数多数あり。この町はベニス市の如く執政官によりて治めらる」と書いた。インドやヨーロッパにいたイエズス会員に、布教状況を伝える書簡『耶穌会士日本通信』に記したもののだから、そのような堺の様子は世界に伝わり、

ヴェネツィアにある大学に通っています

ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学のアジア・北アフリカ学科で、日本研究を行っています。中之島フェスティバルタワーにあるイタリア文化会館のインターンシップに参加するため、1月から4月まで大阪に滞在していました。帰って卒論を頑張ります（笑）。

中之島とヴェネツィア、似てるかなあ（笑）。高層ビルが多いので、ずいぶん新しく感じます。ヴェネツィアで近代的な場所といえば、西端にあるサンタ・ルチア駅の周りぐらい。最近ショッピングビルやホテルができ、観光客でにぎわうようになりました。でも、少し島の中に入ると、路地と何世紀も前の建築物ばかり。僕が通うキャンパスも15世紀に建てられたものです。

僕は日本の歴史文化や美術を勉強したので、たくさんの川が埋め立てられる前のお阪を思い浮かべます。その頃のお阪はきっと小さな船が行き交って、ヴェネツィアに近い姿だったんじゃないでしょうか？

イタリア人に聞いてみた！

ブルーノ・ファマさん



月刊島民のありがち「オフィス街」

新しいタワービルはオフィス以外の機能をむしろ売りにしているし、マンションもどんどん増えている。これこそステレオタイプかもしれない。



Stereotype (?) No.3

博物館島



パリより、ヴェネチアより、こっち!?
新ステレオタイプ候補筆頭、
ベルリンの「ムゼウムスインゼル」。



ドイツの首都ベルリンの中心を南北に流れるシュプレー川にできた中洲(シュプレーインゼル)の北半分に、「ムゼウムスインゼル」=博物館島と呼ばれるエリアがある。そのゆえんは5つの美術館と博物館が島にあること。

中之島には現在、国立国際美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪市立科学館があり、将来的には香雪美術館(中之島フェスティバルタワー・ウエスト内)、大阪新美術館(仮称)ができるわけなので、数の上では互角。とはいえ、ムゼウムスインゼルの面積は約8・6haで、中之島の9分の1ほど。アートが占める密度がスゴい。

大阪大学教授の橋爪節也先生によると、中之島はドイツのライン川に見立てられることもあったという。明治18年(1885)の大洪水で市内の橋が流されてしまっ



たが、木製だった天神橋はドイツから輸入した丈夫な鋼材で、3年後にトラス橋へ掛け替えられた。また、大正7年(1918)に織田一磨が描いた「天神橋遠望」は、かなりドイツっぽい風景を切り取ったものであることなどが見立ての根拠だ。

昭和12年(1937)に大阪市がつくった観光宣伝映画『大阪観光』は、現在の大阪市交通局にあたる大阪市電気局と産業部が制作したもので、地下鉄やバスで市内の観光名所をめぐる構成だ。中之島ではもちろん、観光艇「水都」に乗船する。

「天神祭の紹介から中之島へ移っていくんですが、BGMに注目しましょう。天神祭はリズムカルなタンゴだったのに、中之島のシーンになると優雅なワルツが流れ出す」(橋爪先生)。ワルツ=ドイツとは単純すぎるが、中之島の異国情緒をアピールする大阪市のねらいが見て取れる。

ところで、ダイビル本館1階の「タルマイヤー」が、日本初のフラッグショップをオープンした理由の一つは、本店がある本場ミュンヘンに中之島の雰囲気が似ていたからなのだそうです。



明治24年(1891)の川口の波止場を見ると、やっぱり外国風?大阪府立中之島図書館蔵

当時の世界地図にも「東洋のベニス」と掲載されるほどだったらしい。

② 児童向けの教科書

ブルーノさんが思い浮かべたような昔の大阪については、明治41年(1908)までさかのぼれば、こんな記述を見つけることができる。

「市内を縦横に通つてゐる河には大小の船が上下し、大厦高樓が影を倒にうつし、夜などは電氣燈や瓦斯燈の光が水にうつつて、大阪市が水の上に浮んでゐるようで、ちよーどイタリヤと云ふ国のヴェニスと云ふ町のよーです」(友松会『おほさか』児童藝書おほさか地理の巻)

③ 博覧会のガイド

明治36年(1903)、第5回内国

勸業博覧会が開催された記念に出された案内書では、「世人京都を水の都と称すとはいへ其実は大阪こそ真の水の



大阪をヴェニスに例えた当時の案内書「大阪と博覧会」(大阪府立中之島図書館蔵)は、会場の俯瞰図が付録だった。

府なれ、大阪は西洋人も日本のヴェニス(伊太利にて有名なる水の都)と称する位にて、河と堀とは此地の骨なり」と記されている。

● まとめ

もともとは中世の堺を指したものでしたが、近代以降は大阪の中心部を指すようになったらしい。しかし、街の発展と反比例するかのようになり、大阪の川は道路になり、水上交通が支えてきた商業の街の面影は失われてしまった。かろうじて中之島が当てはまるのかもしれないが、現時点ではちよつと無理があるか。

ほんまかいな

余りにも有名なフレーズは、 実は賛否両論だった!?

Stereotype No.4

天下の台所



月刊島民もイメージで使いまわしがちな『浪花名所図会』『堂島米市の図』(大阪府立中之島図書館蔵)

● 歴史的考察

① 市史編纂時に造語

江戸時代の大坂を指す言葉として、これほど定着したフレーズはない。中之島にあった蔵屋敷や市場、出入りする町人や米俵がすぐに頭に浮かぶ、まさにステレオタイプ。ところが、大坂を「諸国の台所」「日本中の賄所」とした記述は見つかるものの、「天下の台所」という言葉が江戸時代にあつたかどうか、実はよくわかっていない。

2007年に発表された大阪市史料調査会主任調査員の野高宏之さんの考証によって、明治末期に『大阪市史』の編纂に携わった幸田成友氏(幸田露伴の弟にあたる)の造語であることがわかった。初めて使われた際は、「幕府や大名の領主経済を補完する役割」として大坂を位置づける意味があつたとされる。つまり、あくまで日本の中

心は江戸幕府であり、大坂はそれを支える一地方都市の枠を越えない。

② 広まったのは 大大阪時代

この呼び名が一般的になったのは、大大阪と呼ばれた時代だった。東京(幕府)と大阪(大坂)の立場が逆転し、「天下の台所」＝経済の中心であつた一大都市という図式が変わつたのだ。時代と使う人の思惑によって、ステレオタイプの意味も変わってくるのである。「大大阪」において、「天下の台所」は大阪の偉大さを市民に広める、格好の言葉だっただろう。

③ 歴史研究でも賛否

最近になって、現代から過去を振り

＜使用例＞

「天下の台所」、大阪。全国から米やさまざまな特産品が集まった大阪では、古くから豊かな食文化が開きました。

＜ポイント＞

あたかも江戸時代から有名であつたように語られる。また、そこから食のイメージを導き、飲食店紹介のグルメガイドにつなげるパターンも多い。

月刊島民のありがち

「すごいぞ!」

中之島のことになるとやたらとテンションが高くなり、すぐに「すごい」「すご」と言ってしまう。もちろん、楽しいのだけれど。



返る歴史学用語だとわかつたわけだが、依然として研究者の間でも使われ続けている。よく考えれば、江戸時代に「天下の」などと軽々しく口にしているのだろうか。

しかし、大阪大学名誉教授で大阪の社会・経済史が専門の宮本又郎先生は好意的に見ている。「私はそれほど抵抗がありません。江戸時代の日本は多数の藩によって構成されていましたが、大阪はどの藩にも属さないコスモポリタンの地であつたと考えているからです。今日流に言えば、大阪市場は各藩の国内市場ではなく、国際市場(世界市場)であつたといえるので、それには天下という語がふさわしい。批判的な研究者は、大坂も徳川幕府の支配地と考えているのでしょうか。つまり、江戸時代の大坂を封建都市と見るかどうかなのです」

● まとめ

無意識に使っていたが、研究者の間でも見解が分かれる、大阪に対する歴史観に関わる問題だったとは。「食いの倒れ」などと一緒にして、グルメ的な文脈で使わない方がいい。



絵葉書のタイトルはまさに「水の都に誇る堂島川のダム」。大阪市立中央図書館蔵

Stereotype No.5

水の都

ス

テレオタイプやストックフレイズを生む背景とは何だろうか？

ベニスの項で紹介した児童向けの教科書は、こんな風に続いている。

「それで世の人は大阪を水の都ともいふてゐます、河が多くあるから橋の数も亦多いおそらく日本一でせう」

ベニスを指していた「水の都」というフレーズを、大阪にも当てはめようとしているのが面白い。

さらに昭和11年（1936）発行の雑誌『大大阪』では、観光船の乗船体験について「殊に川を利用しての観光は、『ベニス』を回想せしめたが更に『ベニス』以上に活動的で、また規模も大

都市の発展と変貌が、新しい呼び名を求めた。

再検証にあたつた大阪の呼び名の数々は、現在残るものもあれば、忘れ去られたものもある。今もおなじみのフレーズは、奇しくもある時代に普及している。この共通点はどこにあるのか。

さく甚だ愉快に観光した」と、外国人観光客の証言を得ている。

ところで、「水の都」と対になって普及した呼び名に「煙の都」がある。あるいは、「東洋のマンチェスター」。

マンチェスターとは、18世紀半ばから19世紀にかけてイギリスで起きた産業革命の中心地だ。

幕末の大坂経済は衰退し、人口は減少するばかりだった。明治時代を迎え、古い時代に取り残されていた大阪商人を奮い立たせたのが、あの五代友厚だ。

五代は大工業都市となったマンチェスターを視察し、大阪に紡績業や鉄道業、銀行や商社の組織そのものが機能する基盤をつくった。

五代の死後、日清戦争を迎える頃には「東洋のマンチェスター」と呼ばれるほどまでに成長した。この大阪の発展はマンチェスターの業界紙も注目し、イギリス綿業のライ

バルとして日本の研究も行われていた。「煙の都」とは、まさに工場から煙がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名

がたなびく大工業都市。当時としては誇らしい自称だった。一方で、明治末期の阪急電鉄のパンフレットには「美しい水の都は昔の夢と消えて、空暗き煙の都に住む不幸なる我が大阪市民諸君よ！」という序文が掲載されるなど、公害の概念につながるような、通り名



川沿いに建つ工場も「大大阪」時代の絵葉書名所として。大阪市立中央図書館蔵

Stereotype No.6

煙の都



「観光艇『水都』」（大阪市／発行年不明）

外国人旅行者も感動した、船による大阪観光を紹介したイラストマップ。セーラー服を着た「マリナーガール」が同乗したようだ。本文には「次ぎ次ぎに大工場が立ち並び工業大阪の心臓部となって参ります」「水の都の名にそむかず 約七十の川筋に 一千三百近の橋が架せられ」など。

「修学旅行大阪見学」（大阪市役所観光係／1939年）

大阪市による編集で、修学旅行に便利な観光情報を掲載。団体向け旅館リストも扱っている。本文には「日本の台所」に「町人の都」など、代名詞がぞくぞく登場。煙たなびく工場風景や多くの人々が利用する電車といった近代的な描写もありつつ、古くからある神社仏閣についても言及されている。



ガイドブックはこう書いた。

をもじった皮肉もあった。ここでポイントになるのは、どれも大阪の人たちに向けて大阪のことを伝えようとしているところだ。欧米諸国になぞらえるのではなく、ステレオタイプな表現。追いつけ追いつけで頑張ってきた自負と、街が変わってゆく実感がそうさせたのだ。



昭和12年(1937)に完成した御堂筋の拡幅工事も、「大大阪」計画の一つ。大阪市立中央図書館蔵

その頃の中之島は、本誌で橋爪紳也さんが語ったとおり、「今は『シブい』と言われている近代建築も、建てられた当時は信じられないほどに最先端をゆく建築」でずらりと並ぶ壮観な風景だった。当時の人々は「自分たちの大阪を誇りに思い、世界的な都市にしたいと意気込んでいた」はずだ。だからこそ、世界を引き合いに出すのではない、大阪独自のイメージが確立されたわけだ。

月刊島民のありがち「意外と知られていない」
「へえ、そんなことか」という歴史を紹介する際に、さも前から知っていたかのように書かれる。自分たちも調べて知ったくせに。



Stereotype No.7 大大阪

そんな自信を表す最たる言葉が、現在もよく耳にする「大大阪」だろう。大正時代に入ると第一次都市計画事業がスタートし、たくさんの道路の拡張や舗装、橋の掛け替えが実施された。大大阪時代とは、大阪が欧米のような近代都市に近づくために整備された、大正末期から昭和初期の時代を表している。

また、パリやベニスなどの古い都への憧れは、転じて「水の都」であり続けた大阪の魅力再発見にもつながったはずだ。「天下の台所」が広まったのもこの時代だったと紹介したが、これらはおそらく偶然ではない。

大正14年(1925)に第二次市域拡張を実施した大阪市は、隣接町村を編入し、その人口は東京を超える200万人超となった。それは日本最大であったばかりでなく、世界から見ても6番目に人口の多い都市だった。地下鉄の開通、大阪城の大改修、大阪帝国大学の設立…。大阪は世界と肩を並べる条件を整えていく。関東大震災で東京に大きな被害があったことを考慮しても、「大大阪」は決して気持ち先走った表現などではなかった。実際に大きかったのである。



「大大阪記念博覧会」がポスターに描かれているのは、商業の神「メルクリウス」。大阪府立中之島図書館蔵

街への願望が ステレオタイプになる。

「水の都」は、イメージを更新しながら使われ続けている。水辺観光を再生させるべく、プロジェクトが始まったのが2001年。2009年から始まった「水都大阪フェスティバル」を経て、この4月からは新たに「水都大阪コンソーシアム」が始動する。

実際のところ、大阪観光局への問い合わせ状況から察すると、まだまだ大阪の水辺についての情報は、国内はおろか市民にもあまり浸透していないという。

メディアが拡散する「お笑い」や「粉もん」のイメージが強く、川があるとは知っていても、何ができるかは知らない人が多いのだ。中之島だけではなく、大阪市内全体の回遊性を高めようと、大阪観光局は、「水の都」や「水都」を定着させたいと意気込んでいる。

ステレオタイプとは言いつつも、ほとんどが大阪の人々の自称であり、そこにはさまざまな思惑が働いている。都市への願望がステレオタイプを生むと言ってもいい。だいたい、今回取り上げたステレオタイプも、大阪以外の人は(大阪の人も?)聞いたことがないかもしれない。そもそも「島民」というタイトルですら、中之島に愛着を持ってほしいからと、そう呼ぶことにしたのだった。



シティクルーズの裏側を覗いてみよう



ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懷徳堂
プロジェクト



船のメンテナンスを行う棧橋を見よう。

エンジンルームの秘密とは？



気分は船長、操舵室へご案内！

クルーズの船中から見ての記録を撮ろう。



ナカノシマ大学の
シティクルーズの
プロジェクト

◎今月の授業

【船の中】

2017年6月講座

「アクアライナー船内探検ツアー」

ガイド／岸田俊徳(大阪水上バス 企画宣伝部)

操舵室やエンジンルーム、係留棧橋などふだんは見られない場所を見学できるチャンス！

中之島の川をゆく船として、すっかりおなじみのアクアライナー。とはいえ、乗ったことはある人はたくさんいても、その内部まで入ったことのある人はまずいないはず。

今回はアクアライナーをはじめ、中之島～大阪城エリアのシティクルーズを多数手

がける大阪水上バスとコラボ。操舵室やエンジンルームなど、ふだんは見ることのできない船の内部を大公開。クルーの方がガイド役となり、船のしくみを解説していただく。また、船のメンテナンスなどを行う係留棧橋へもご案内。アクアライナーの秘密

をたっぷりご覧いただく。

参加者には、好評につき通年での就航となったナイトクルーズ「天満橋ベストビュークルーズ」のチケットをプレゼント。舞台裏を覗くと共に、クルーズの楽しみも味わえる贅沢な企画です！

「アクアライナー船内探検ツアー」

日時／2017年6月5日(月)・12日(月)

7:00PM～8:30PM頃(受付開始6:30PM～)

集合場所／八軒家浜船着場

受講料／2,500円(天満橋ベストビュークルーズチケット付き)

定員／各回60名

主催／ナカノシマ大学事務局

協力／大阪水上バス

お名前・ご住所・電話番号・人数・講座名を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。複数名でご参加希望の場合、ハガキ、ファックスについては、人数分の必要事項を明記してください。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学6月講座」受付係 FAX.06-4799-1341

※先着順で受付後、5月20日前後より受講票をお送りします。

※受講料は講座当日に受付にてお支払いください。

※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

※当日のお車ならびに自転車でのご来場はご遠慮ください。

ナカノシマ大学の最新情報は

<http://www.nakanoshima-univ.com>

ケータイからは
こちら！→



お問い合わせ ☎ 06-4799-1340
(ナカノシマ大学事務局)

五月席の二コマ

御茶場御礼

●お題「丁稚」

「丁稚奉公に学ぶ」

丁稚とは、下働きとして商家に奉公する少年のこと。江戸時代の大坂には特に多く、町人のまちを舞台にした上方落語の世界において、欠かせない存在だ。落語を聞きながら、改めて丁稚の仕事ぶりを見てみよう。

鼎談には、『小さな会社でぼくは育つ』を上梓した神吉直人さんが登場。企業内の人と人との関わりを研究しているその視点から、丁稚システムを分析する。

落語／桂春之輔「平林」

桂米平「正月丁稚」

笑福亭鶴「二七段目」

桂文喬「次の御用日」

露の都「格気の独楽」

鼎談／「小さな会社で丁稚は育つ」

現代にこそ必要なのは神吉直人さんが、職場としての商家に注目。

ゲスト／神吉直人（追手門学院大学准教授）

高島幸次（大阪大学招聘教授）

桂春之輔

ナカノシマ大学でお得な前売り券を発売中！

開催日／5月25日（木）

開演時間／6:30 PM（開場6:00 PM）／受付開始5:45 PM（

受講料／2300円（通常・前売2500円／当日3000円）

お支払い方法／当日（5:45 PM）、繁昌亭入口付近の「ナカノシマ大学受付」にてお支払いください。

※予定枚数に達し次第、予約受付を終了します。※ナカノシマ大学では当日券の販売は致しません。

●お申し込み方法、お問い合わせ先はP9を参照してください。



丁稚の存在感が大きい「格気の独楽」は、露の都さんがいろいろな役を演じ分ける。

桂文喬さんによる「次の御用日」は、丁稚が主人公。登場人物の掛け合いが面白い。

イラスト／フジワラトモコ

三月席の二コマ

御茶場御礼

鼎談／「驚く力・笑う力・驚く力を取り戻す！」

名越康文 高島幸次 桂春之輔

高 ここまで「延陽伯」で「ぞろぞろ」「胴斬り」「あたまた山」の4席を聞いてもらいました。

名 驚く展開の噺ばかりなんです。主人公がまったく驚いていないのが面白いです。「そういうこともあるかもしれない」と、話の展開に乗っかる力があるんです。

高 名越先生が書かれた「驚く力」にもありました。が、若い人たちには話に乗っかって会話を深めていく人が少なくなつたような。

名 そうですね。最近はどうですか。

高 そうですね。最近はどうですか。

高 皆さんご存じですか。名越先生は本業の精神科医とは別に、ご自分でロックを作曲して歌ってはるんですよ。これが寄り道ですね。

名 寄り道じゃないですよ。僕はもう歌手です！





新生パナンテに
加わった
キャラ立ち5店!

天満橋の表情が、駅ナカから変わる!

京阪天満橋駅構内の「パナンテ京阪天満橋」は、新入りの5店舗をはじめ、どのお店も11時から23時まで開いているのが嬉しい。西改札口の利用時間も23時まで延長され、天満橋の夜は駅から変わりつつある。



てつ鍋カツを [薫焼きともつ鍋]

オーダーごとに新鮮なカツオを薫焼きの炎で仕上げる。「たっぷりの薬味とボン酢で、味を変えながらどうぞ」。夜は和食が中心のダイニングへ。デザートのかき氷もぜひお試しを。

☎06-6232-8891

▶カツオの薫焼き
たたき定食1,190円



「昼から駅でカツオのたたきを食べられるなんて!」と、また夜も来てくださる方が多いんですよ。
(店長・福荷さん)



スタンドgu-te [バル&スパイスカレー]

福島の名店の味が、よりシンプルにわかりやすく、ささっと味わえるように。果実たっぷりのサワーと一緒に、新鮮な和牛のプレートなど、大阪産の食材を使ったバルメニューもどうぞ。

☎06-6585-0810

▼名物肉皿1,058円



飛魚やサバのダシが効いたキーマカレーのほか、「はじめまして」の方向けに、食べやすい欧風カレーも用意しました!(店長・高橋さん)



▲ダルトリトキーマカレー880円



山系無双烈火 [山形らーめん]

山形の郷土食「ひっぱりうどん」風混ぜそばは、納豆やサバのほぐし身、好みで加えた梅こんぶ酢の一体感が◎。山形の修行経験を大阪に持ち帰り、うまくアレンジしている。

☎06-4790-8866

▶米沢ラーメン750円



店舗限定のあっさりした「米沢ラーメン」は、細麺なので茹で時間が15秒! 乗車前のささっとランチで活躍します。(店長・安野さん)



大衆酒処 うみさち [居酒屋]

新鮮な車エビ料理は「赤字覚悟です(笑)」。なんと昼の2時から、海鮮をアテにお酒が飲める。日替わりの新鮮な魚介が4種類乗った、限定30食の海鮮丼ランチもおすすめ。☎06-4792-8608



▲活車エビおどり
塩焼き各194円
◆海鮮丼
(にゅうめんと小鉢付き)
780円



車エビのいけすは、駅構内を歩いているお子さんに人気。お母さんたちを引っ張ってのぞきこんでいます。
(スタッフ・森田さん)



ニッポンバルHANABI [和バル]

「ちょっとずつ」はお一人様も大歓迎。また、おかずが詰まったわっぱ弁当や俵型おむすびを店頭でテイクアウトできるのが嬉しい。オフィスに音楽、仕事帰り……どんなシーンでも頼れそう。☎06-6809-7979



▲花火盛り6種842円



手作りのおばんざいを小鉢に盛っているの、あれもこれもと選んでもらえます。テーブル席も用意しています。
(店長・浦田さん)

パナンテ
PANANTE

3月21日(火)にリニューアルグランドオープン!

パナンテ京阪天満橋

●大阪市中央区天満橋京町1番1号(京阪「天満橋駅」コンコース)

レストラン 11:00AM~11:00PM(土日祝は10:00PMまで) ショップ 10:00AM~9:00PM

※年中無休・営業時間は店舗により異なる

記録する建築

(仮称)大阪新美術館について

取材文／大迫力(本誌)

新しい美術館の設計者は、コンペによって決められた。このことが持つ意味は、建築関係者でなければイメージしづらいかもしれない。

コンペとプロポーザルの違いをご存じだろうか？一般的にコンペは「案」を選び、プロポーザルは「人」を選ぶと言われる。前者では案の中身やクリエイティビティが尊重されるのに対し、後者では実績がより重視される傾向がある。

では、参加する建築家にとってはどちらがモチベーションが高まるか。まだ実績に乏しい若手や、アイデアに自信を持つ人にとっては答えは自明だろう。つまり、コンペを行ったという点に、主催者の意志を感じ取ることができるのだ。

最近の傾向を見る限り、行政主体で行われる設計者の選定は、ほぼすべてがプロポーザルによって決まっている。新奇性よりも失敗しないことを第一義とするからだろうか、それもやむを得ないように思える。だからこそ、なぜコンペだったのか聞いてみたいと思った。

取材に応じてくださった大阪市の新

第1回 コンペに託されたもの

美術館整備担当課長である洞正寛さんは、コンペを「選択した」と語る。

「確かに最近の傾向はその通りですが、一方で設計者の方からは、やはりコンペの方が創造力をかき立てられ

る、やる気につながるという声も

うかがいました。大阪市としては30年以上の時間をかけて検討してきた美術館ですから、できるだけ素晴らしい提案を受けていきたい。同時に対外的な話題も集められる注目度の高いやり方で進めたい。それであれば、コンペ形式にする方がふさわしいのではないかと判断しました」

洞さんによれば、今回の題材が美術



4月14日まで、大阪工業大学梅田キャンパスOITタワーの1階ギャラリーにて、コンペの優秀案の展示が行われていた。

館であったことも関係しているという。定まった形のない、むしろ斬新さが好まれる美術館は、確かにコンペ向きだろう。多くの人のクリエイティビティを刺激したい。そんな強い思いが感じられる。

それはコンペの参加資格にも表れている。今回は参加者があらかじめ限定された指名制ではなく、公開型のコンペである。また、第一次審査の参加資格にある、延床面積2000㎡以上の施設の新増築にかかる設計実績とは、エントリーのハードルとしてはとても低いものだ。

「美術館や博物館の設計実績があることを要件に加える場合もありますが、我々はコンペを選択したわけですから、

ら、大事なものは中身です。新しい美術館は1万5000㎡以上あり、それを設計するには面積要件が小さすぎるのではないかという議論もありました。しかし、やはり多くの人に「ご参加いただくことが大事だ」と思っている限りハードルは低くしようと考えたのです」

その一方で、当欄でも後述する設計にあたって守られるべき要領は、とても細かく作り込まれていた。そう、ここにもたくさんの方が詰まっているのだ。

「この美術館には、こうあってほしいという長年検討してきた積み重ねがあります。そうした経過や学芸担当職員の思いを受け止めて、作品として表現してもらえらるものを選びたかった。ですから、要領には初めからなるべくきっちり記載しようということになったのです。すでにコレクションがあり、美術館に求められるものもある程度はつきりしている。となると、今度はその与えられた材料を建築がどのように活かすのかを考えていただく必要があります。我々としては、条件をできるだけ明確にして、コレクションを活かす建築をご提案いただきたかったのです」

より多くの人から素晴らしい提案を集めたい。そのためにコンペという手法を選んだ。このことについて、わたしたちはもう少し敬意を払っていい。

トウニン月報

2017年5月1日発行

キテ・ミテ中之島2017は中之島全体が会場に



京阪電車中之島線の駅にアート作品が飾られ、美術館のようになる「キテ・ミテ中之島」が、今年は5月20日（土）よりスタートする。中之島をイメージした絵画や風景を切り取った写真、駅のレイアウトを活かしたこの時期だけのデザインが構内に設置され、が

らりと景色が変わる。毎日通勤する島民はもちろん、駅に訪れる観光客を楽しませてくれる初夏の風物詩だ。
今年の特徴は、駅だけでなく、中之島エリアという街全体が会場になっていること。沿線に散らばるキーワードを集めると、中之島らしいアイ

駅からはじまるアートイベント 「キテ・ミテ 中之島2017」

期間／5月20日（土）～6月25日（日） 観覧無料

（改札内は入場券もしくは乗車券が必要）

◎オープニングセレモニーやキーワードラリー、

その他ワークショップの日程や会場、

参加方法は駅設置のチラシやホームページを参照

<http://www.keihan.co.jp/traffic/kitemite/>

問い合わせ☎06-6945-4560（京阪電車お客さまセンター）

※平日9:00AM～7:00PM・土曜と休日は5:00PMまで

バラが見頃の中之島公園を中心に巡るハイキングや駅構内の飲食店でクッキング体験、界隈の科学館や美術館、企業が丸になったプログラムがたくさん。駅をきっかけに、人々の興味が広がる画期的なプロジェクトになりそうだ。（江口由夏・本誌）

テムが当たる「キーワードラリー」は初の試みだ。期間中は子どもから大人まで参加できるワークショップが開催され、



第1回 「水の都、大阪の夏」

落語



桂九雀
「遊山船」



笑福亭たま
「船弁慶」

講演

高島幸次

道修町
くすりの町の落語会
が始まります！



日時／6月17日（土）

2:00PM～4:00PM頃
（受付開始1:00PM～）

入場料／1,000円（資料代込み）

会場／田辺三菱製薬 本社

詳細・申込は<http://www.tanamin-yose.net>

道修町たなみん寄席

検索

ゴールデンウィークの行き先が中之島というのも珍しくなくなってきた。今年もほたるまのABCホールで開催される「中之島 春の文化祭」は、そんな中之島のイメージアップにつながっている一大イベントだ。
2日間にわたって出演するのは総勢30組。20分の持ち時間で、ダンスや漫才、演劇や

気の秘密。また、短めのステージを「お試し」感覚でのごお客さんも多く、興味を持った出演者の本公演へ足を運ぶなど、関西のパフォーマーとお客さんをつなぐ橋渡し役にもなっている。年々出演を熱望する団体が増えているというのも納得。
時間帯や見たい出演者によって、好きな分だけ観劇でき



演者の気合いも十分 中之島 春の文化祭

浪曲など、思い思いのパフォーマンスを披露する。見る者を飽きさせない、多彩なジャンルのステージが人

るブロック券を設けたことも、気軽にのぞくことができるという好評だ。当日券は、各日開演15分前より発売開始される。文化祭らしく、当日は開放感ある屋外ウッドステージで観覧無料ライブが行われ、ホットドッグやおむすびのテントが並ぶ。川辺でちょっとした遠足気分が味わえそう。（江口由夏・本誌）



「中之島 春の文化祭2017」

日時／5月3日（水・祝）2:00PM～ 4日（木・祝）1:00PM～

当日券／一日通し券3,000円 1ブロック券1,500円

（開演15分前より販売・全席自由）

問い合わせ☎06-6451-6573（ABCホール）

<http://asahi.co.jp/abchall/event/>



「素晴らしいホールに誇れる、音楽好きの聖地になりたいですね」

ハンカチや文房具、お菓子にティンペア、ティーカップにランブ…。何のお店なんだろう？と思われる方も、至るところに使われた音符や楽器のモチーフに気づいてもらえるはずです。スタッフのエプロンにも注目してください。ピアノの鍵盤をデザインし、染めたものです。

ここは日本では珍しい「世界の音楽ギフトショップ」として、この4月1日にオープンしました。「レオノーレ」は、音楽好きならピンとくる名前かもしれないね。あのベートーヴェンが生涯に唯一作り上げたオペラに登場する女性のことで、囚われた夫を身を挺して助ける健気で勇敢なキャラクター。だから、スタッフはみんな女性なんです。彼女は私たちの理想。お客さまに對して、そんな真心のある接客を心がけたいと思っています。なにしろ種類が多い店内ですから、おみやげ選に迷われた時はお声がけください。



たとえば、ベートーヴェンにちなんだグッズがあります。ドイツにあるベートーヴェンの生家は「ベート

ーヴェン・ハウス」というクラシックファン



ージアムショップから仕入れたものも置いてあります。バツハやモーツァルトなど、レアなグッズも多く揃えています。ステンレスを使った音楽グッズは、ここだけのオリジナル。自社工房があり、ステンレスアートやステンレス製の家具

を手作りしています。世界的な演奏家もこの椅子を愛用しているんですよ。演奏中に激しく動いても、背もたれがしなっと壊れないのだそうです。

実は、以前は旧フェスティバルホールの1階に拠点があったので、お客様からは「お帰りなさい」と

音楽好きにはたまらないセレクトをしています

[レオノーレ] マネージャー 鳥井尚美さん

「お帰りなさい」という言葉が多いですね。いまのホールの催しを見てみると、クラシックだけではなく、ロックやジャズ、バレエに狂言まで、日々様々な公演が行われています。それだけ幅広い世代の方が中之島を訪れているわけです。かつての「レオノーレ」はクラシックにちなんだグッズばかりでしたが、フェスティバルホールにふさわしいショップとして裾野を広げてみました。ギターやドラム

のミニチュアフィギュアやバレリーナをデザインした服飾雑貨は、早くも好評のようです。音楽好きの方に垣根はないと実感させられましたね。素晴らしいホールを訪れた記念に立ち寄ってもらえるような、聖地のような存在になりたいです。



祝 祭 へ よ う こ そ 。

FESTIVAL
PLAZA

<http://festivalplaza.jp/>
提供/株式会社 朝日ビルディング

Information from レオノーレ [中之島フェスティバルタワー1階]

音楽記号をデザインに取り入れたり、作曲家や演奏家まつわるグッズを扱うショップが、この4月に仲間入り。音楽好きをうならせるセレクトセンスのインポートグッズのほか、「たち吉」とコラボしたカップ&ソーサーシリーズは、さりげなく入った音符のポイントが日常生活でも使いやすいデザインで◎。ステンレス製のグッズは、自社工房を持っているだけに、サインや演奏椅子など、オーダーメイドも受け付けている。プロも通いたいお店。☎06-6210-5903 10:00AM~8:00PM



大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、
みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

- 京阪電車関連 京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／パナテ天満橋店／ホテル京阪 天満橋／ホテル京阪 京橋 グランデ
- 大阪市北区・中央区・福島区 〔書店〕旭屋書店 梅田地下街店／紀伊國屋書店 梅田本店／グランフロント大阪店・本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／梅田ヒルトンプラザ店・天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店 〔公共施設・大学関連施設など〕アイズボット／朝日カルチャーセンター／味の素 食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市中央公会堂／大阪市立科学館／大阪市立総合生涯学習センター／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院 大阪梅田サテライト／川の駅はちけんや／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪シティキャンパス／国立国際美術館／CITYNAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／少彦名神社／中央電気倶楽部／適塾／ドーチャ／ホテルNCB／メビック扇町／立命館大阪オフィス／龍谷大学大阪梅田キャンパス 〔店舗・医院など〕アンドール 本町本店／上町貸自転車／Ultra 2nd／江戸前鰻料理 志津町／天満橋鍼灸整骨院／MJB珈琲店／エルマーズグリーン コーヒーカウンター／大西洋服店／大西洋服店／OOO(オーオー)／カセット／喫茶カンタロー／喫茶SAWA／グラススイート中之島／黒門さかえ／コマカフェ／The Court／サウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／シアトルベストコーヒー新聞ビル店／じろう亭／Girond's JR／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブイレブン大阪証券取引所店／タビエスタイル／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／パストラーレ／花かつ／BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／FOLK／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとりばかや／吉田理容所／LES LESTON
- 大阪市内その他 〔書店〕旭屋書店 なんばCITY店／紀伊國屋書店 京橋店／ジュンク堂書店 難波店／福島書店／柳々堂／ループル書店 〔公共施設・大学関連施設など〕大阪科学技術館／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立中央図書館／大阪府立中之島文化芸術創造センター／川口基督教會 〔店舗・医院など〕あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリパル／大阪シティ信用金庫 江戸堀支店／御角かもめ／カルチャーカフェ上方／Calo Bookshop and cafe／写真とプリント社／鳥かごキッチン／ネイルサロン スワナ／バルビコ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA／Loop A
- 大阪府下 旭屋書店 京阪守口店／学運堂／Books 呼文堂／水嶋書房 千住店／大阪狹山市立図書館／大阪市立難波市民学習センター／大阪大学企画部広報・社学連携事務局／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／大阪府立中央図書館／摂南大学 地域連携センター／野村呼文堂／郵政考古学会／ゆとりんこ／連携考房 童子
- 大阪府以外 ジュンク堂書店 西宮店／恵文社 一乗寺店／水嶋書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／川のほとりの美術館／納屋工房／タバーン・シンパソン／百練／奈良県立図書情報館／龍谷ミュージアム
- 東京 往来堂書店(千駄木)／BOOKSルージュ(吉祥寺)／B&B(下北沢)／隣町珈琲(原宿中庭)／ONLY FREE PAPER(東小金井)／かもめブックス(新宿)

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円(手数料)でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 舞台裏におじゃまします。

いま中之島でお披露目を待っている公演、特別展、新拠点…。
本番までの道のりを、その舞台裏から眺めてみよう。

●『月刊島民』vol.107は2017年6月1日発行です！

編集・発行人／大迫 力(編集集団140B)

編集・発行／月刊島民プレス

若狭健作 網本武雄(株式会社 地域環境計画研究所)

松本 創 江口由夏(編集集団140B)

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階

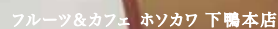
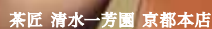
Tel 06-4799-1340 Fax 06-4799-1341

制作進行／堀西 賢(ALEGRESOL)

デザイン／山崎慎太郎

表紙イラスト／奈路道程

印刷／佐川印刷株式会社



京阪のる人、
おけいはん。